

## 鳥取労働局長が事業場を視察

－平成 28 年度全国労働衛生週間の事業－

内田敏之鳥取労働局長は、全国労働衛生週間の期間中である 10 月 5 日（水）に、鳥取市南吉方にある株式会社ジャパンディスプレイ鳥取工場を視察しました。

この視察は、化学物質による健康障害やメンタルヘルス対策が社会的な問題となっている中、鳥取労働局長が労働者の健康確保対策に積極的に取り組んでいる事業場を視察し、労働者の健康確保対策に係る指導に資することを目的に行ったものです。

同工場は、労働者約 800 人により車載用液晶カラーディスプレイ等を製造しています。労働災害防止対策についても「見える化」などの活動に積極的に取り組み、本年 3 月 23 日には 700 万時間の無災害を記録して、厚生労働省労働基準局長から無災害記録証第 1 種を授与されました。



杉本保健師から説明を受ける内田局長

視察では、まず、ジャパンディスプレイ鳥取工場の榎並国男工場長からあいさつがあった後、長尾洋鳥取総務課マネージャーから、同工場の概要説明がありました。



杉本保健師から説明を受ける内田局長

その後、健康管理室に移動し、同工場で行っている労働者の健康確保対策について、杉本江里子保健師から説明がありました。同工場では、メンタル、健康、栄養をキーワードとし、工場で働く人のためのさまざまな健康管理の取組が行われていました。外務講師を招いた健康づくりやメンタルヘルスなどのセミナーの開催、年 2 回

の健康フェアの開催、地元のイベントを活用した健康づくり活動などを開催し、多くの労働者が参加していること、単身赴任者が多いことから、ハサミと電子レンジだけ使って作る健康メニューを、ポスター「ラク・チン食堂」で紹介していることなどが紹介されました。



長尾マネージャーから製造工場の説明を受ける内田局長

工場視察では、長尾マネージャーから化学物質を取り

扱う際の健康障害防止対策や同工場で作っている製品の説明を受けました。



長尾マネージャーから製品の説明を受ける内田局長

ることなどの意見が提出されました。

鳥取労働局では、この視察を通じて得た情報を県内の事業場にも紹介して労働者の健康管理対策を促進していくこととしています。

視察後には意見交換を行いました。杉本保健師から、「病気と生活との問題に取り組むときには、社員・会社・外部機関とのつなぎを行うことで、問題を解いていくことが可能となる。」と働き盛りの人の健康管理に取り組むことが重要であることや、保健師がいない職場でも自治体等のイベントを利用すれば簡単に健康づくりの取組が実行でき